

佐賀大学のこれから -ビジョン2030- (中間まとめ)

高等教育を取り巻く状況が急激に変わろうとするなか、2030年までの10年を見据えたビジョン「佐賀大学のこれから-ビジョン2030-」を策定し、令和2年4月に公表いたしました。ビジョン2030では本学が目指す2030年の姿を「佐賀大学に関わる人々が誇れる大学」「佐賀大学で学びたいと選ばれる大学」「地域社会から期待、信頼される大学」と定め、「教育」「研究」「社会貢献」「大学運営」の4領域について、予測困難な時代を生き抜くことができる“強い佐賀大学”となるための本質的で主体的な改革ビジョンを提示することで、他律的な政策に拘泥し、手段が目的化することなく、本学が抱える課題を解決し、さらに発展するための自律的な取組を生み出すことを目指しています。

ビジョン2030の実現に向け、令和2年7月からビジョン・プロジェクトを開始し、全学的に取り組んでまいりました。前半の5年間を終えた今、これまでの取組による到達度を確認し、後半5年間の実行・飛躍・加速期につなげるため、「中間まとめ」を作成し、ステークホルダーの皆様に対しても公表することにいたしました。

また、2028年度から始まる第5期中期目標期間に向け、新たな中期目標・中期計画の策定作業が始まろうとしています。ビジョン2030の到達度を踏まえ、佐賀大学憲章が謳う「地域とともに未来に向けて発展し続ける大学」を実現するよう検討を進めてまいります。

佐賀大学のこれから -ビジョン2030-と中期目標期間の関係

-ビジョン2030- PHASE 1 準備期		-ビジョン2030- PHASE 2 始動期		-ビジョン2030- PHASE 3 実行期		-ビジョン2030- PHASE 4 飛躍期		-ビジョン2030- PHASE 5 加速期		実現
令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
中期目標 (第3期)		中期目標 (第4期)				中期目標 (第5期)				

教育	到達度
ビジョン しなやかな知性と未知なる領域に踏み出す行動力を基盤に、 多様な人々との協働を通して持続可能な社会を構築できる人材を育成する。	
1-1. 時代のニーズに対応した分野横断型の学位プログラムの構築	★★★★☆
ビジョンプロジェクト ・分野横断型副専攻プログラムの構築 ・特定の分野に留まらない幅広い知識と多様な視点と共に課題解決に導くためのスキルや能力を修得した人物の養成 (令和6年～) (中期計画3-3)	
・本学では令和3年度から学部生全員にデータサイエンス教育を導入した。さらに令和6年度には、数理・データサイエンス・AI教育プログラムをもとに専門教育科目および、教養教育科目を組み合わせ、分野横断的に学ぶことができる「副専攻プログラムデータサイエンス専攻」を開講した。 ・社会とのつながりの中で、知識や技能を培うこと社会で生き抜く実践的な力を身に着けることを目的とした「インターフェース科目」の履修方法を見直し、複数プログラムを履修できるよう改善を図った。 ・コスメティックサイエンス学環 (仮称) の設置を令和8年4月に予定している。本学環は、学部等連係課程という新しい仕組みを活用することで、理工学部及び農学部の連携を基盤に、総合大学の強みを活かし全学体制で構築した分野横断型の学位プログラムである。コスメティックサイエンスという分野を体系的に学べる大学は国内では稀少であり、本学の教育の特色となり得る。	
1-2. しなやかな知性を育む教養と「学び続ける力」の修得を目指す教養教育の再構築	★★★★☆
ビジョンプロジェクト ・幅広い教養人材の育成を目指したカリキュラム改革プロジェクト (中期計画3-2)	
・①基本教養科目では「自然科学と技術の分野」「文化の分野」「現代社会の分野」の3分野すべてを必修化した。②「インターフェース科目」の履修方法を変更し、複数テーマを掛け合わせて学ぶことが可能になった。③副専攻プログラムの履修者増のため体系的と履修方法を改正した。これらの取り組みを支える教育体制については、質の高い教養教育を持続的に行える組織とするため全学教育機構を再編し、全学協力体制のもと教養教育を実施するよう改めた。	
1-3. 総括的・総合的な学びの場を重視した専門教育の在り方の見直し	★★★★☆
ビジョンプロジェクト ・「佐賀大学学士力」修得を目指した学生の成長実感プロジェクト (中期計画3-1) ・地域に必要なとされる教員養成プロジェクト (中期計画4-1)	
・全学部で、初年次と4年次に課題設定・探究能力の獲得状況をアセスメントする科目を設定し、卒業研究、卒業論文等の科目に向けて複数回、課題設定・課題探究を経験できる教育を導入した。これにより、学生は教育課程内で課題の設定・発見、探究、データの分析や結果の解釈、協働的な取組、プレゼンテーションといった活動を経験し、総括的・総合的な学びとなる卒業研究、卒業論文等の科目に向けて学習できるようになった。	

達成度 ★★★★★…十分に実施できている ★★★★★…実施できている ★★★…十分には実施できていない ★…実施できていない

1-4. ダイバーシティを背景に多様な学生が互いを刺激し、学び合う場の創造

★★★☆☆

ビジョン プロジェクト	・インクルーシブな学びが保障される大学での構築に向けた環境整備
	・高大接続事業の発展的展開と多様な個性や背景を持った学生の受入を目指した入試制度の拡充
	・戦略的パートナーシップに基づく高度な国際共同教育推進プロジェクト
アクション	・インクルーシブな学びを保障するため、キャンパスライフサポーター（学生版）の養成研修キットを開発し、サポーター養成を開始したほか、多様な個性や背景を持った学生の受入を目指し、女子枠の新規導入（理工学部）、地域枠の拡大（教育学部、医学部）をはじめとする特徴的な入試制度（総合型選抜及び学校推薦型選抜）を全学的に拡充した。また、戦略的パートナーシップ候補校との間で、派遣・受入学生に対する奨励金制度の構築、高度な共同教育（サンドイッチプログラム等）の開設及び派遣・受け入れ体制の再整備を進めている。

1-5. 教学マネジメントによる教育の質保証

★★★☆☆

ビジョン プロジェクト	・教学マネジメントによる教育の質保証プロジェクト（中期計画2-1）
アクション	・「教学マネジメント推進室」を設置し、専任教員を置くとともに、大学入学（入口）から卒業（出口）までを一貫通貫した全学的な教学マネジメント体制を構築した。「教学マネジメント推進室と学部との対話」により、「アドミッション・ポリシー（AP）の妥当性の検証」を行った結果理工学部で共有された総合型選抜や学校推薦型選抜の早期合格者の学力不足という課題に対して、教育改善支援経費を手当し、入学前教育を新たに実施することに繋がった。

研究	到達度
ビジョン	持続可能な社会の実現と地域社会における安全・安心、豊かで質の高い生活の実現に向けて、研究者の育成を進め、知の資産を創出するとともに、地域社会の発展に寄与する研究とイノベーションの創出を強力に推進する。
2-1. 個々の研究者の自由な発想に基づく基礎研究・応用研究の充実と分野横断的な研究の推進	★★★☆☆
ビジョン プロジェクト	・基礎研究と学術研究の卓越性・多様性強化プロジェクト（中期計画5-1） ・研究施設における共同研究活性化プロジェクト（中期計画6-1） ・国際共同研究の重点的推進のための戦略的パートナーシッププロジェクト（令和4年～）
アクション	・研究者の自由な発想に基づく研究を実施するため、科研費獲得に向けた取組（プラン）の策定や部局ごとの目標値設定、科研費説明会の実施、特進クラスの開設、査読体制の強化（学外機関による査読）を実施し、その結果、科研費採択率の向上並びに採択件数の増加につながった。 ・海洋エネルギー研究所を核としたフューチャー・リソース推進プラットフォーム、シンクロトン光応用研究センターを核とした新素材創出推進プラットフォーム、農学部附属アグリ創生教育研究センターを全学組織として改組した生物資源教育研究センターを核とした農水産業振興研究プラットフォームを設置し、全学的なマネジメント体制の下で人員を配置し、関連研究の活性化を図っている。
2-2. 将来を見据えた新たな研究分野の創出と投資	★★★☆☆
ビジョン プロジェクト	・基礎研究と学術研究の卓越性・多様性強化プロジェクト（中期計画5-1）
アクション	・これまでの取組として、SDGsプロジェクト研究所として、研究テーマごとにプロジェクトを設置し、全学的な認知の下での研究を推進してきたほか、「ダイヤモンド半導体」「ポリマーブロック法による人工臓器と人工肉の製造」などの将来的に本学の特徴的な研究分野として期待される研究にミッション実現戦略分として予算の重点配分を行った。 ・海洋エネルギー研究所などの国際的な活動状況の情報発信スペースとして、国内外に戦略的な情報発信をおこなうため、産学交流プラザ内に「国際展示ルーム」を開設した。 ・プラットフォーム設置により、全学的なマネジメント体制の下で研究分野の強化・拡張を図った。
2-3. 企業との連携強化による共同研究・ベンチャービジネスの推進	★★★☆☆
ビジョン プロジェクト	・地域の課題解決に向けた地方自治体等との連携推進プロジェクト（中期計画1-1） ・ベンチャービジネス推進支援（～令和3年）
アクション	・令和4年度に知財に関する専門性の高いURA（リサーチ・アドミニストレーター）を採用するとともに、令和5年度に知的・財産管理システムを構築し、契約の入口から特許出願、管理までの業務をシームレスに行う体制を整えた。システム構築によりシーズの発掘が容易となったことで、地域の企業との共同研究数や特許を活用したライセンス契約数の増につながっている。 ・佐賀大学発ベンチャーに係る称号授与及び支援に関する規程を改正し、大学発ベンチャービジネスの起業支援の環境を整備した。これにより研究者や学生が起業しやすくとともに、スタートアップ教育、技術開発、製品開発、マーケティング等のノウハウの蓄積を図ることで、大学発ベンチャービジネスの起業支援を図っている。
2-4. 研究者個々の研究力向上に向けた環境整備と次世代研究者の育成	★★★☆☆
ビジョン プロジェクト	・研究施設における共同研究活性化プロジェクト（中期計画6-1）
アクション	・URAの増員や知的財産コーディネーターの新規配置など、研究支援の強化を図り、研究者が研究に専念できる時間の確保に努めている。 ・研究遂行に必要な研究設備の共用については、令和5年に「国立大学法人佐賀大学における研究設備・機器の共用方針」を策定し更なる共用体制の強化を行った。 ・次世代研究者の育成としては、英語論文の作成支援（校閲経費の支援）、科研費申請書のブラッシュアップ、研究倫理教育の徹底を行っている。



社会貢献	到達度				
ビジョン	佐賀県をはじめとする周辺地域の社会変革を担う大学を目指し、産学官連携の推進による教育・研究活動の高度化を通じて、持続可能な地域社会の実現に寄与する。				
	<p>3-1. 地域社会の期待に応える人材の輩出 ★★★☆</p> <table border="1" data-bbox="248 338 1525 584"> <tr> <td data-bbox="248 338 376 376">ビジョンプロジェクト</td> <td data-bbox="376 338 1525 376">・社会ニーズを活用した教育プログラムの充実（令和2年～）</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="248 376 1525 584"> <ul style="list-style-type: none"> ・インターフェース科目は、「社会との接続」を教育理念に掲げ、本学で学修した内容と社会とを接続し、個人と社会の持続的発展を支える力を育成する科目であり、特徴ある科目として大学の顔となっている。教育学部が科目を新設するなど改善を図り、運用している。 ・正課外の教育プログラムとして、企業が求める人材を育成するために参加企業から提供された実践的なプログラムに参加するキャリアアクセラレーションプログラムを実施しており、社会ニーズを活用した教育の充実を図っている。 ・ステークホルダーから収集した意見は、教学マネジメント推進室が分析した結果を各部署に還元し、それに対応した教育内容の設定を依頼している。 </td> </tr> </table>	ビジョンプロジェクト	・社会ニーズを活用した教育プログラムの充実（令和2年～）	<ul style="list-style-type: none"> ・インターフェース科目は、「社会との接続」を教育理念に掲げ、本学で学修した内容と社会とを接続し、個人と社会の持続的発展を支える力を育成する科目であり、特徴ある科目として大学の顔となっている。教育学部が科目を新設するなど改善を図り、運用している。 ・正課外の教育プログラムとして、企業が求める人材を育成するために参加企業から提供された実践的なプログラムに参加するキャリアアクセラレーションプログラムを実施しており、社会ニーズを活用した教育の充実を図っている。 ・ステークホルダーから収集した意見は、教学マネジメント推進室が分析した結果を各部署に還元し、それに対応した教育内容の設定を依頼している。 	
ビジョンプロジェクト	・社会ニーズを活用した教育プログラムの充実（令和2年～）				
<ul style="list-style-type: none"> ・インターフェース科目は、「社会との接続」を教育理念に掲げ、本学で学修した内容と社会とを接続し、個人と社会の持続的発展を支える力を育成する科目であり、特徴ある科目として大学の顔となっている。教育学部が科目を新設するなど改善を図り、運用している。 ・正課外の教育プログラムとして、企業が求める人材を育成するために参加企業から提供された実践的なプログラムに参加するキャリアアクセラレーションプログラムを実施しており、社会ニーズを活用した教育の充実を図っている。 ・ステークホルダーから収集した意見は、教学マネジメント推進室が分析した結果を各部署に還元し、それに対応した教育内容の設定を依頼している。 					
	<p>3-2. 生涯学習の場としての大学開放 ★★★☆</p> <table border="1" data-bbox="248 633 1525 1037"> <tr> <td data-bbox="248 633 376 757">ビジョンプロジェクト</td> <td data-bbox="376 633 1525 757"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム「佐賀県地域連携プラットフォーム（仮称）」の創設（令和5年～） ・授業開放と公開講座の拡充（～令和4年） </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="248 757 1525 1037"> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯教育関連事業（公開講座、授業開放）、リスキル関連事業（助産師リスキル事業、DX人材育成事業）などにより、本学が有する教育資源の提供に努めている。 ・県内企業800社に対して、リカレント教育及び必要とする人材に関するアンケート調査を行い、人材ニーズを明確化し、企業の人事担当者にリカレント教育の提供を行うこととした。 ・ウェルビーイング創造センターリカレント教育部門では専任教員を採用し、大学コンソーシアム佐賀、地元産業界、県庁・市役所、地元金融機関とプラットフォームを形成してリカレント教育の充実を進めている。 ・「大学コンソーシアム佐賀」加盟大学が開講するリカレント教育科目のリスト化を行い、新たに制作したりカレント教育に関するポータルサイト「Sagallege（サガレッジ）」で、「大学コンソーシアム佐賀」加盟大学が開講する講座情報を一元的に公開できるようにした。 </td> </tr> </table>	ビジョンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム「佐賀県地域連携プラットフォーム（仮称）」の創設（令和5年～） ・授業開放と公開講座の拡充（～令和4年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯教育関連事業（公開講座、授業開放）、リスキル関連事業（助産師リスキル事業、DX人材育成事業）などにより、本学が有する教育資源の提供に努めている。 ・県内企業800社に対して、リカレント教育及び必要とする人材に関するアンケート調査を行い、人材ニーズを明確化し、企業の人事担当者にリカレント教育の提供を行うこととした。 ・ウェルビーイング創造センターリカレント教育部門では専任教員を採用し、大学コンソーシアム佐賀、地元産業界、県庁・市役所、地元金融機関とプラットフォームを形成してリカレント教育の充実を進めている。 ・「大学コンソーシアム佐賀」加盟大学が開講するリカレント教育科目のリスト化を行い、新たに制作したりカレント教育に関するポータルサイト「Sagallege（サガレッジ）」で、「大学コンソーシアム佐賀」加盟大学が開講する講座情報を一元的に公開できるようにした。 	
ビジョンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム「佐賀県地域連携プラットフォーム（仮称）」の創設（令和5年～） ・授業開放と公開講座の拡充（～令和4年） 				
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯教育関連事業（公開講座、授業開放）、リスキル関連事業（助産師リスキル事業、DX人材育成事業）などにより、本学が有する教育資源の提供に努めている。 ・県内企業800社に対して、リカレント教育及び必要とする人材に関するアンケート調査を行い、人材ニーズを明確化し、企業の人事担当者にリカレント教育の提供を行うこととした。 ・ウェルビーイング創造センターリカレント教育部門では専任教員を採用し、大学コンソーシアム佐賀、地元産業界、県庁・市役所、地元金融機関とプラットフォームを形成してリカレント教育の充実を進めている。 ・「大学コンソーシアム佐賀」加盟大学が開講するリカレント教育科目のリスト化を行い、新たに制作したりカレント教育に関するポータルサイト「Sagallege（サガレッジ）」で、「大学コンソーシアム佐賀」加盟大学が開講する講座情報を一元的に公開できるようにした。 					
ア ク シ ョ ン	<p>3-3. 地域課題の解決に資する研究の推進と企業との連携強化 ★★★☆</p> <table border="1" data-bbox="248 1086 1525 1422"> <tr> <td data-bbox="248 1086 376 1205">ビジョンプロジェクト</td> <td data-bbox="376 1086 1525 1205"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決に向けた地方自治体等との連携推進プロジェクト（中期計画1-1） ・佐賀地域における地域貢献事業の活性化（住民の社会生活・暮らしの維持・支援に対する佐賀大学の貢献度の継続的モニタリング）（～令和3年） </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="248 1205 1525 1422"> <ul style="list-style-type: none"> ・「佐賀県・佐賀大学連携調整会議」において、佐賀県から本学の取組が評価されたことで、佐賀県が財政支援を行う「TSUNAGIプロジェクト」事業を立ち上げ、佐賀県の総合計画やSociety5.0時代に対応した地域の課題解決等の研究支援を展開している。本プロジェクトでは、本学研究者が佐賀県の総合計画に示された課題解決に直結する研究テーマを提案し、また、佐賀県担当者から喫緊の課題を提案いただき本学研究者とマッチングしており、地域の要請に応える体制が整っている。 ・令和5年から鹿島市との連携調整会議を開催し、鹿島市の総合計画に沿った課題解決型プロジェクトを本学から提案し、意見交換を行っており、これまでの成果が認められた結果、令和7年度から鹿島市との連携プロジェクトとして、支援いただくことが決定した。 </td> </tr> </table>	ビジョンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決に向けた地方自治体等との連携推進プロジェクト（中期計画1-1） ・佐賀地域における地域貢献事業の活性化（住民の社会生活・暮らしの維持・支援に対する佐賀大学の貢献度の継続的モニタリング）（～令和3年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「佐賀県・佐賀大学連携調整会議」において、佐賀県から本学の取組が評価されたことで、佐賀県が財政支援を行う「TSUNAGIプロジェクト」事業を立ち上げ、佐賀県の総合計画やSociety5.0時代に対応した地域の課題解決等の研究支援を展開している。本プロジェクトでは、本学研究者が佐賀県の総合計画に示された課題解決に直結する研究テーマを提案し、また、佐賀県担当者から喫緊の課題を提案いただき本学研究者とマッチングしており、地域の要請に応える体制が整っている。 ・令和5年から鹿島市との連携調整会議を開催し、鹿島市の総合計画に沿った課題解決型プロジェクトを本学から提案し、意見交換を行っており、これまでの成果が認められた結果、令和7年度から鹿島市との連携プロジェクトとして、支援いただくことが決定した。 	
ビジョンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決に向けた地方自治体等との連携推進プロジェクト（中期計画1-1） ・佐賀地域における地域貢献事業の活性化（住民の社会生活・暮らしの維持・支援に対する佐賀大学の貢献度の継続的モニタリング）（～令和3年） 				
<ul style="list-style-type: none"> ・「佐賀県・佐賀大学連携調整会議」において、佐賀県から本学の取組が評価されたことで、佐賀県が財政支援を行う「TSUNAGIプロジェクト」事業を立ち上げ、佐賀県の総合計画やSociety5.0時代に対応した地域の課題解決等の研究支援を展開している。本プロジェクトでは、本学研究者が佐賀県の総合計画に示された課題解決に直結する研究テーマを提案し、また、佐賀県担当者から喫緊の課題を提案いただき本学研究者とマッチングしており、地域の要請に応える体制が整っている。 ・令和5年から鹿島市との連携調整会議を開催し、鹿島市の総合計画に沿った課題解決型プロジェクトを本学から提案し、意見交換を行っており、これまでの成果が認められた結果、令和7年度から鹿島市との連携プロジェクトとして、支援いただくことが決定した。 					
	<p>3-4. 地域における社会生活の維持と人々の暮らしを支援 ★★★☆</p> <table border="1" data-bbox="248 1471 1525 2009"> <tr> <td data-bbox="248 1471 376 1552">ビジョンプロジェクト</td> <td data-bbox="376 1471 1525 1552"> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域医療体制構築プロジェクト（中期計画7-1） ・地域医療を支える医療人養成プロジェクト（中期計画7-2） </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="248 1552 1525 2009"> <ul style="list-style-type: none"> ・特定機能病院の認定を受けている医学部附属病院は、地域にとってかけがえのないものであり、佐賀県唯一の大学病院として、佐賀県及び周辺医療圏の最後の砦として高度・急性期医療を担っている。 ・留学生を含む多数の学生が地域の夏祭り（佐賀城下栄の国まつり）やイベントに積極的に参加・協力し、地域住民との交流を深めている。また、美術館をはじめとする大学の施設や人材を地域に開放し、地域活性化に貢献している。 ・有田キャンパスでは地域との連携交流（窯元青年部の交流・共同展示「佐賀大学×陶交会PROJECT」）により、地域産業への理解や産業人材の養成に繋がっているほか、有田キャンパスストリートギャラリーの展示は地域の景観づくりに貢献している。授業科目「有田キャンパスプロジェクト」では、学生が自発的に地域や他者との繋がりを考えたプロジェクトを企画し、地域でのプレゼンテーションや作品発表、有田町の子供の居場所づくり事業への活動提供など学生が積極的に地域で活動を行うことにより、街の魅力創生等観光や町の活性化に繋がった。 ・窯元と連携し、毎年、夏休み期間中に陶磁器産業へのインターンシップを行っている。陶磁器生産現場を実際に体験することで、肥前地区の陶磁器産業への理解と将来の進路決定の参考となっており、毎年複数名が有田町で窯業関係に就職している。 ・地域と連携した研究活動では、佐賀県窯業技術センターと連携して「焼成時無収縮陶器土による成型法開発と造形表現への応用」「異素材を利用した陶磁器表現の研究」「次世代に向けた有田焼開発」を行い、研究成果発表を行っている。手作りロクロの技法を活用した「次世代に向けた有田焼開発」では、伝統を継承し美術的価値に着目した商品の開発を進めるとともに、後継者不足や生産体制の見直しなど、有田焼が抱える課題への解決策を提案している。 </td> </tr> </table>	ビジョンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域医療体制構築プロジェクト（中期計画7-1） ・地域医療を支える医療人養成プロジェクト（中期計画7-2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定機能病院の認定を受けている医学部附属病院は、地域にとってかけがえのないものであり、佐賀県唯一の大学病院として、佐賀県及び周辺医療圏の最後の砦として高度・急性期医療を担っている。 ・留学生を含む多数の学生が地域の夏祭り（佐賀城下栄の国まつり）やイベントに積極的に参加・協力し、地域住民との交流を深めている。また、美術館をはじめとする大学の施設や人材を地域に開放し、地域活性化に貢献している。 ・有田キャンパスでは地域との連携交流（窯元青年部の交流・共同展示「佐賀大学×陶交会PROJECT」）により、地域産業への理解や産業人材の養成に繋がっているほか、有田キャンパスストリートギャラリーの展示は地域の景観づくりに貢献している。授業科目「有田キャンパスプロジェクト」では、学生が自発的に地域や他者との繋がりを考えたプロジェクトを企画し、地域でのプレゼンテーションや作品発表、有田町の子供の居場所づくり事業への活動提供など学生が積極的に地域で活動を行うことにより、街の魅力創生等観光や町の活性化に繋がった。 ・窯元と連携し、毎年、夏休み期間中に陶磁器産業へのインターンシップを行っている。陶磁器生産現場を実際に体験することで、肥前地区の陶磁器産業への理解と将来の進路決定の参考となっており、毎年複数名が有田町で窯業関係に就職している。 ・地域と連携した研究活動では、佐賀県窯業技術センターと連携して「焼成時無収縮陶器土による成型法開発と造形表現への応用」「異素材を利用した陶磁器表現の研究」「次世代に向けた有田焼開発」を行い、研究成果発表を行っている。手作りロクロの技法を活用した「次世代に向けた有田焼開発」では、伝統を継承し美術的価値に着目した商品の開発を進めるとともに、後継者不足や生産体制の見直しなど、有田焼が抱える課題への解決策を提案している。 	
ビジョンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域医療体制構築プロジェクト（中期計画7-1） ・地域医療を支える医療人養成プロジェクト（中期計画7-2） 				
<ul style="list-style-type: none"> ・特定機能病院の認定を受けている医学部附属病院は、地域にとってかけがえのないものであり、佐賀県唯一の大学病院として、佐賀県及び周辺医療圏の最後の砦として高度・急性期医療を担っている。 ・留学生を含む多数の学生が地域の夏祭り（佐賀城下栄の国まつり）やイベントに積極的に参加・協力し、地域住民との交流を深めている。また、美術館をはじめとする大学の施設や人材を地域に開放し、地域活性化に貢献している。 ・有田キャンパスでは地域との連携交流（窯元青年部の交流・共同展示「佐賀大学×陶交会PROJECT」）により、地域産業への理解や産業人材の養成に繋がっているほか、有田キャンパスストリートギャラリーの展示は地域の景観づくりに貢献している。授業科目「有田キャンパスプロジェクト」では、学生が自発的に地域や他者との繋がりを考えたプロジェクトを企画し、地域でのプレゼンテーションや作品発表、有田町の子供の居場所づくり事業への活動提供など学生が積極的に地域で活動を行うことにより、街の魅力創生等観光や町の活性化に繋がった。 ・窯元と連携し、毎年、夏休み期間中に陶磁器産業へのインターンシップを行っている。陶磁器生産現場を実際に体験することで、肥前地区の陶磁器産業への理解と将来の進路決定の参考となっており、毎年複数名が有田町で窯業関係に就職している。 ・地域と連携した研究活動では、佐賀県窯業技術センターと連携して「焼成時無収縮陶器土による成型法開発と造形表現への応用」「異素材を利用した陶磁器表現の研究」「次世代に向けた有田焼開発」を行い、研究成果発表を行っている。手作りロクロの技法を活用した「次世代に向けた有田焼開発」では、伝統を継承し美術的価値に着目した商品の開発を進めるとともに、後継者不足や生産体制の見直しなど、有田焼が抱える課題への解決策を提案している。 					

大学運営		到達度
ビジョン	学内外の資源を有効かつ最大限に活用し、全ての構成員が能力を発揮できる環境を構築するとともに、学長はリーダーシップを発揮し、本学の英知を結集することで未来に向かって持続的に発展することができる大学運営を行う。	
	4-1. 「強い佐賀大学」を目指すための持続的な経営システムの構築	★★★☆☆
ビジョンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング等による内部統制実質化プロジェクト（中期計画8-1） ・学内外の専門的知見活用プロジェクト（中期計画8-2） ・大学施設のスペース再配分等による有効活用プロジェクト（中期計画9-1） ・戦略的な施設整備による排出CO₂削減プロジェクト（中期計画9-2） ・教育研究設備の整備推進プロジェクト（中期計画9-3） ・安定的な財務基盤確立プロジェクト（中期計画10-1） ・資源配分の最適化プロジェクト（中期計画10-2） ・IR機能を活用したエビデンスベース法人経営推進プロジェクト（中期計画11-1） ・情報セキュリティを含む情報基盤強化プロジェクト（中期計画12-1） ・デジタル技術利用による運営事務効率化プロジェクト（中期計画12-2） ・「強い佐賀大学」を目指すための多様な研究者（若手・外国人）の確保と育成（令和3年～） ・事務職員の会計業務にかかる知識及びスキルの向上（令和6年～） ・「強い佐賀大学」を目指すための多様な研究者（女性研究者）の確保と育成（令和3年～） ・DX推進計画 フェーズ1（～令和3年） 	
	<p>（主な取り組みを抜粋して記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IR室で収集したデータに基づき、学長裁量経費「評価反映特別経費（業務の評価）」を活用した予算の最適化配分を実施した。 ・法人評価、認証評価等に関する重要な指標について、IRデータを活用したモニタリングを実施し、進捗に遅れがあるものや改善が必要なものについて大学運営連絡会に報告し、各部局にて速やかに改善対応を実施することで法人運営を適正化した。IR室から提供した各種情報が、コスメティックサイエンス学環（仮称）の設置や佐賀大学・熊本大学共同教員養成課程（仮称）設置の経営判断の材料として活用されている。 ・外部資金の獲得においては、令和5年度実績で目標に対して達成率146%、施設設備の利用料は達成率126%となっている。また、スペースの有効利用においては、施設利用状況調査による改善指導の結果、高水準の利用率（4期中間平均値=99.1%、目標値：95%）を継続することができている。さらに、省エネ機器の導入により大幅なCO₂の削減（令和7年4月現在：目標値20%に対し35.6%）が達成できている。 	
	4-2. 教職員が「やりがい」を持って働くことのできる大学の実現	★★★☆☆
ビジョンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい生活様式」を取り入れた教員の働き方改革（令和4年～） ・事務職員の仕事効率向上のためのベストミックス・プログラム（～令和5年） 	
アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・教員について 各人の能力や適性を活かす適材適所の人員配置かつ部局の将来構想に沿った教員配置になるよう学長及び人事担当理事が部局長と面談し、調整のうえ配置を行っている。能力開発や人材育成については、組織的な取り組みが必要であるが検討に至っていない。部局による業績内容の違いを鑑み、教員の評価は部局が実施し、評価の適切性について学長・理事による協議または判定会議で確認している。 ・職員について 適材適所を考慮した人事異動に努めており、また、部署・役職に応じた研修を多数実施している。目標管理型評価制度のもと、一定程度適正な評価が実施されているが、課題もあるため、職員のモチベーションを高める評価制度へ見直しを検討している。 ・教職協働 現状でも各室において職員と教員による教職協働が行われているが、意識の醸成と業務の見直しにより更に教職協働を進めていく必要がある。 	
	4-3. ユニバーシティ・アイデンティティを基盤とした佐賀大学ブランドの確立	★★★☆☆
ビジョンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーとの意見交流を重視した情報発信プロジェクト（中期計画11-2） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーシティ・アイデンティティ（UI）を明確にすると共に、社会における知名度やイメージの向上のために、ステークホルダーを年代等により5つに分け、ステークホルダーが関心をもつ内容を、ステークホルダーの関心ある情報発信媒体を用いて発信した。そのためにホームページの見直し、SNSの導入、記者会見方法の見直し（プレスリリース様式、記者からの広報に係わる意見収集など）を行った。五月雨式発信から、今後は戦略的広報への展開が望まれる。 	
	4-4. 附属教育研究施設の見直しとミッション達成に向けた改革の実行	★★★☆☆
ビジョンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学部と附属学校園の協働によるミッションの再確認と実施（令和4年～） ・研究施設における共同研究活性化プロジェクト（中期計画6-1） ・持続可能な地域医療体制構築プロジェクト（中期計画7-1） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・附属学校園では、新しい教育方法やカリキュラムの研究開発を行い、その成果を、県内外の教育関係者に研究成果発表会にて報告している。また、県内の教育モデル校としての役割も兼ねており、地元の教育委員会と連携しながら地域の教育水準向上のためのモデル校としての役割も担っている。 ・共同利用・共同研究拠点である海洋エネルギー研究所及び研究センター（総合分析実験センター、シンクロトン光応用研究センター、地域学歴史文化研究センター、肥前セラミック研究センター）はロードマップを作成し、総合研究戦略会議に活動計画と前年度実績を報告のうえ協議し、ミッション実現に向けて活動をしている。 ・医学部附属病院では、令和6年4月からの働き方改革により大学病院の医師が教育・研究に従事する時間の更なる減少及び大学病院の役割・機能の低下が懸念される中、文部科学省が「大学病院改革ガイドライン」を策定したことを受けて、令和6年6月に「佐賀大学医学部附属病院改革プラン」を策定し、持続可能な大学病院経営及び地域医療体制の構築に取り組んでいる。 	